

〔藻鹽草十五人倫并異名〕朝臣

あそ へくりのあそ ちくはのあそ ほづみのあそ いけだのあそ

〔古事記中仁德〕天皇略○中 召建内宿禰命、以歌問鷹生卵之狀、其歌曰、多麻岐波流、宇知能阿曾、那許曾波、余能那賀比登、蘇良美都夜麻登能久邇爾、加理古牟登岐久夜、

〔古事記傳三十七〕宇知能阿曾は、内之阿曾なり、略○中 阿曾は阿曾美の省、阿曾美は吾兄臣の切ま

りたるにて、親み崇めて云稱なり、天武天皇の御代より朝臣と書て、姓の尸と定め賜へり、續紀

に、阿曾美爲朝臣云々、書紀釋に、朝臣、帝王相親之詞と云り、朝臣の字を當らられたるは、阿佐、美

の臣と云意をも取られたる本より、此字の意の稱には非れども、此字を用ひられたるには、朝延

り、さて天武天皇の御世に、初めて此尸を賜へる氏々は、多くは舊臣の尸なりし氏々なるは、も

る故にやあらむ、書紀神功卷の歌にも、此人を多摩積波屢于知能阿曾とよめり、又万葉十六に

は、水淳池田乃阿曾、八穗蓼乎、穗積乃阿曾、薦疊平群乃阿曾、なごもよめり、

〔日本書紀神九〕爰伐新羅之明年、略○中 三月丙申朔庚子、命武内宿禰和珥臣武振熊、卒數萬衆、令擊忍

熊王、略○中 忍熊王逃無所入、則喚五十狹茅宿禰而歌之曰、伊裝阿藝、伊佐智須區禰、多摩積波屢于知

能阿曾、餓勾夫菟知能、伊多氏於破孺破、珥倍迺利能、介豆岐齊奈、

〔萬葉集十六〕大神朝臣與守報、啜歌一首

佛造、眞朱不足者、水淳池田乃阿曾、我鼻上乎穿禮、

或云

平群朝臣啜歌一首
小兒等、草者勿、荊八穗蓼乎、穗積乃阿曾、我腋草乎可禮、

穗積朝臣和歌一首

何所曾、眞朱穿岳、薦疊平群乃阿曾、我鼻上乎穿禮、